

会 議 記 録

次の審議会（協議会）を下記のとおり開催したので報告します。

審議会等名称	第2回近江八幡市オーガニックビレッジ推進検討会		
開催日時	令和7年10月27日（月） 14:00～15:30		
開催場所	近江八幡商工会議所 2階 大ホール （住所：近江八幡市桜宮町231番2）		
出席者 ※会長等◎ 副会長等○	※出席委員（敬称略、順不同） 仁連孝昭（◎）、秋津元輝、尾賀康裕、秋村田津夫、大西實（○）、 鬼海航太、山本航平、田口真太郎、和田洋 中尾星志（オンライン参加） ※欠席委員（敬称略、順不同） 山本昌仁 【事務局】 総合政策部企画課 課長 武田善雄、課長補佐 東有希、主査 中川郁 産業経済部農業振興課 課長 川村忠基、課長補佐 木村知明、主事 漁野智、主事 友松奈津子		
次回開催予定日	令和8年1月～2月頃		
問い合わせ先	所 属 名 : 総合政策部企画課 担当者名 : 中川 郁 電話番号 : 0748-36-5527 メールアドレス : 010202@city.omihachiman.lg.jp		
会議記録	発言記録 ・ 要約	要約した理由	会議が長時間にわたったため、内容を整理して、分かりやすく記録として残すため
内容	別紙のとおり		

担当課⇒総務課

事務局	開 会 省 略
会 長	挨拶 ■ 検討会の会議が始まった経緯を考えると、西の湖のことがあったと思う。有機農産物をつくって売るというしくみをつくるだけでなく、西の湖と近江八幡と農業とのつながりを意識しながら、西の湖や琵琶湖、近江八幡市に住む人の暮らしや健康を含め、有機農業を推進していくということを考えていきたい。
事務局	議題 1 近江八幡市有機農業推進業務委託について (資料 1 に基づき、事務局及び受託者である(株)坂ノ途中より受託者の紹介および委託内容の説明を行った。)
委 員	■ 1 点目は、業務委託内容について、どういう段階で検討会に諮っているのか。 ■ 2 点目は、座談会を実施されているが、生産者以外の人たちをどのように巻き込んでいくのか。どうやって生産者の生活を支えていくのか。どう事業に組み込んでいただくかがポイントになる。 ■ 3 点目は、有機農産物のブランド化とあるが、まちのブランド化も業務内容に入れてほしい。
事務局	■ 1 点目については、事業者も決定し仕様書に基づいて実施しているため、大枠については変更することができないが、例えば調査項目など今後協議をさせていただき余地はあるため、ご意見いただいた内容を踏まえて検討したい。 ■ 2 点目の座談会については、今回の調査を踏まえて実施を検討している。また何かご提案などがあれば、お願いしたい。 ■ 3 点目のまちのブランド化については、市自体が近江八幡市といえばオーガニックであるというイメージを持っていたかのような取組をしていきたい。委託の中でどこまで提案いただけるかについては検討する。もちろん今後のブランド戦略についてもそれを前提に進めたい。
委 員	■ 座談会について、業務委託の形もあるか。
事務局	■ 昨年度は(株)坂ノ途中に委託し、運営支援をいただいた。
委 員	■ 座談会のファシリテーターを(株)坂ノ途中にしてもらえばどうか。委託に含められないか。
事務局	■ 予算的な問題もあるが、今回の調査も踏まえて実施したいと考えており、相談しているところ。
会長	■ 今年度は調査分析、販路開拓に関する提案をしていただくが、今年度はどこまで進めていくのか、次年度はどう進めていくのか明確にする必要がある。今年度追加できないのであれば、次年度取り組むなどはどうか。
事務局	■ 資料 2 で説明予定であったが、先に説明させていただく。 (資料 2 に基づき、次年度の事業案について一部説明を行った。)
会長	■ 有機農作物を生産し、売れば良いという方に傾いているような気がするが、この検討会も元々は西の湖を意識していたので、近江八幡のまちづくりに有機農業を結びつけていくために、まちづくりの視点を入れる見直しが必要な気がする。
事務局	■ 消費者意識の醸成ということで、イベントでオーガニックの推進について啓発をした。近江八幡市産の有機の米とにんじんをつかった試食を配布し、それと同時にチラシを配布し、オーガニックなまちづくりを進め

事務局	ているということを、啓発させていただいた。 ■ 今回は一つのきっかけではあるが、こういった取組や、アンケートの回答で学びたいという声などを拾いながら事業に取り組んでいく。 ■ まちづくりについて指摘をいただいた点については、ご指摘のとおりと考えている。他の自治体では農政部局が前面に立って展開されているところが多く、オーガニックビレッジを企画課が推進していることに驚かれるが、市の総合計画を所管している企画課が関与しているということで、循環型社会や脱炭素の取組なども含め、庁内外の連携を図りながら進めていきたい。
委 員	■ 企画課が市の取組方向性を決めて、農業振興課とタイアップしているが、例えばオーガニックビレッジ推進課など早く組織として独立して欲しい。市もこれだけ意気込みをもっているということを示していかないといけない。 ■ お互い協力していただいているのはわかるが、お互い譲り合いになるのではないか。 ■ また、自分は米を作っているが、近所の知り合いの方が分けてほしいということで、工面してわけた。当然その方が食べるのだと思ったが、家族が県外から引っ越してきたので、近江八幡市のお米が美味しいと聞いて分けてほしいということだった。すごく美味しいと言ってもらえた。 ■ そこで、ふるさと納税の返礼品に出してはどうかと考えた。近江八幡市では近江牛が多いが、毎日食べるものではない。お米は毎日食べるので、早く近江八幡市のお米をブランド化したい。 ■ それから、坂ノ途中さんが最初の言葉で伴走という言葉が言われたが、その言葉がすごく響いた。最後まで付き合いをしていただけるという言葉なので、信じてることができる。近江八幡市にもプレッシャーをかけてほしい。
事務局	■ ふるさと納税の返礼品に有機農産物を出されている自治体もあると聞いているので、そういったことも含めて検討したい。 ■ また、坂ノ途中様については、有機の知見を持っておられるのでご教示いただくこともあると思うが、誠心誠意取組を進めていきたい。
委 員	■ スーパーや直売所で高くてもあえて選んでいただけるような取組をしていかないといけない。一方で生産者にとって有機農業はリスクも高いので、取り組んでいただけるよう生産者へのインセンティブを図るということも考えられる。 ■ 予算ははどのくらいついているのか。
事務局	■ 国の交付金等を活用しながら市としてオーガニックビレッジの推進事業に係る令和 7 年度の当初予算としては約 3500 万円の予算措置となっている。 ■ その中には、地域おこし協力隊の報償費や委託費、地域活性化起業人の派遣負担金、農機具の購入費用などが含まれる。 ■ 生産者の支援としては別途、有機農業 1 反当たり 1 万 4000 円を交付している。
委 員	■ プロジェクトが始まる時には、ソーシャルイノベーションということで、社会はどう変えたいかということは最初に来ないといけない。何が問題でそういった取組をするのか。そこを基準としないといけない。一貫することでプロジェクトそのものが落ち着いてくる。
委 員	■ 市の予算についてご説明をいただいたが、例えば農業振興課で、1 反 1 万 4000 円の支援というのは全国一律だと思うので、近江八幡市として何をするのかということが問われる。

事務局

委員
委員

委員

委員

委員
委員

- 学校給食であれば公費を投入しやすいが、例えば、慣行から転換する時に必ず5年間ほどは収量が下がるので、その際に補填するような補助金はどうか。
- 技術的な面はもちろんその間に学ばなくてはいけないが、どう補助していくのか、支援していくのか、そういう枠組みをつくってはどうか。
- 近江八幡市では、課題も多く検討段階だが、農機具を行政が購入してお貸しすることで、導入コストを抑える支援を検討している。
- 有機農業向けの機械の開発や先進的な取組はされているのか。
- 国の指針がでていますが、情報をとっている段階である。有機農業向けの農機具の開発は具体的にはない。
- グリーンな栽培体系加速化事業検討会で、有機農業の技術に関する検討会を別でしている。ポット苗の田植え機は、皆さん聞き馴染みがないように一般的な田植え機と少し違う。
- この田植え機のメリットと考えているのが、ポットで田植えをしていくので、農業資材の消費量が少ないということ。
- また、有機農業の課題として収量が低いことと、作業工数（雑草の除草作業の回数）が多いことがあり、生産性が低い、実証で取組んでいることが主に二つある。一点目が除草作業の工数を減らす取組がある。具体的には、田植えをした後の水管理を高くすることによって、稲はうまく生育ができる高さでも、雑草に関しては深すぎて、あまり生育ができないような環境を作ることが効果的だと今の技術の中で注目されている。
- 二点目が、今年も35度以上の気温が多く、高温化では一定数の米が白く濁ってしまう。そうしたときに水位の調節をして稲が埋まっている土の温度を下げることによって、減らせるのではないかという実証をしている。
- そういった水管理をしていく中で、田植えをするときに大きい丈の稲を植える必要があり、大きい稲を植えるためには、ポット苗という技術が必要不可欠になってくる。
- ただ、現状、ポット苗の田植え機を持っている生産者は少ないので、近江八幡市の支援をいただけるのはありがたい。
- 慣行農業の中で収量は1反あたり9俵というのが指標となっているが、今年、慣行農業と同じとまではいかないが、今年は1反あたり8俵という慣行農業に近い収量となった。
- こういったポット苗のシステムが近江八幡市に広まっていけば、資材が減るということは、西の湖への負担が軽減される二次的な効果も見込める
- 有機の水稻は雑草の問題が大きい。それを解決する方法としては大きく二つ技術があると思っている。一つはポット苗で、ある程度育った苗を植えて雑草に打ち勝つ栽培方法になる。もう一つは発生した雑草をどのようにして除草するかということになる。最新の研究として、研究段階ではあるが、除草するのにきれいに植えられた水田を走る必要があるためそういった機械が一つと、きれいに整った水田を自動で除草する機械などが有機生産者に求められているものではないかと考えている。
- 収穫した稲は最終的にはどうされるのか。
- 最終的には母体の会社が仕入れて加工しお菓子として使うもち米の生産を主にしている。また今年に関して、食用のうるち米も生産をしており、お客様向けに販売を昨年から始めている。去年に対して今年は2倍の販売価格で設定したが、去年よりもむしろ売れ行きがいい。

委 員
委 員
委 員

- 小分けの袋詰めで販売しているが、300g など 1 人 2 人分ぐらいで食べていただくような量が売れ行きがよい。
- 玄米や無洗米など試験的な販売方法をしているが、通常の精米の方が売れ行きは良かった。
- 社外に出したりはされていないか。
- 弊社はしていない。
- 一般的に言うにつくるのが大変でコストがかかる分ペイできるように誰が買ってくれるかという難しいハードルを越えてようやくサイクルが成り立つ。一番ネックだと思うので示唆いただければと考えている。

事務局

議題 2 令和 7 年度を取組及び令和 8 年度の事業案について
(資料 2、参考資料 2 に基づき、説明を行った。)

委 員
事務局

- ③の堆肥化づくりについて再度説明をお願いしたい。
- 近江八幡市で実施しているのは、生ゴミ処理機の購入補助を実施している。電気式のものとは電気式でないもので条件は異なる。身近な取組をしていただくことで、資源循環の取組を推進していきたい。また、牛糞や鶏糞を市内の農業で利用をされている。

会長
事務局

- 近江八幡市の主体は米だと思う。米作りには導入できないと思うが。
- 直接その堆肥を使って米作りに利用するわけではないが、そういった取組を通じて資源循環やオーガニックなまちづくりに関心を持っていたければと考えている。

委 員
事務局

- 電気式の生ゴミ処理は、おそらく乾燥させるだけで、ゴミを減らすことにはつながるが、無理して入れなくていいのではないか。
- 確かにそういう側面もあることは承知しているが、近江八幡市の場合は既に生ゴミの堆肥を使って実際に栽培されている大規模農家がおられる。もっとそういう堆肥の取組をとというような意見も聞いている。
- このまちづくりという大きな概念から、資源循環というものを入れているということでご理解いただきたい。

委 員
事務局
委 員

- 生ゴミ処理機全体のことでなくて、コンポストのことを言っているのではないか。そうであれば、そのように書けばわかる。
- 趣旨としてはコンポストのことを言っている。
- 昨日、八幡堀で船頭をしたが藻が絡んで大変であった。かつて、農家さんが八幡堀で藻かきをして田んぼの肥料にしていたため、八幡堀に藻は一つもなかった。実施計画の最初に載っているように、何十年とそういう歴史があった。また、父親は冬場に西の湖の周辺で藻かきをして田んぼに上げていた。

会長

- 化学肥料がない時代は、近江八幡市だけでなく滋賀県中で有機農業をしていた。昔に戻れとは言わないが、そういう精神も文化の一つで、実証実験として 1 反でもやってみてはどうか。船頭の方も困っている。
- 皆さんの意見は三点あると思う。
- 一点目は、近江八幡市でオーガニックビレッジをすることの意味、近江八幡市らしいオーガニックビレッジの意味を十分に考えて進めていかないといけないということ。まちづくりと言われた方もいるしソーシャルイノベーションと言われた方もいる。
- 二点目は、近江八幡市として有機農業を進めていくために、国の制度もうまく利用すればいいとは思いますが、どういう独自の取組をしていくのかということ。
- 三点目は、行政の取組として企画課と農業振興課の 2 課で進めている

事務局

- が、それでいいのかということがあげられる。2課で行うのであれば、その良さを出せるような体制をどうしていくのかということがある。
- それを踏まえて今年度や来年度の取組に生かしていただければと思う。

事務連絡

- 3回目の検討会は令和8年1月～2月頃を予定している。日程調整表を送付する。

閉会

(省略)